

平成27年度総会を実施

事務局長 堀川 豊彦

3月29日(日)、東海美術連盟の平成27年度総会が中央公民館の講座室で行われました。会員の皆様に26年度の行事結果並びに決算について報告、了承頂くとともに、27年度の行事計画、予算、会員、組織並びに機関誌パレットの実績・編集方針などについて確認・了承を頂きました。

行事計画では、春の一泊スケッチ旅行が今年は奥日光となり、参加募集の案内が配布されました。また、会員と役員の異動の紹介があり、北支部の理事を永年務めて頂いた波澄さんに代わり副理事の鴨志田さんが理事に、番場さんが副理事に就任されることとなりました。

本年度のメインイベントである美術連盟40周年記念事業の実施内容について、棚井副理事長より説明があり、早速40周年記念展を兼ねた芸術祭の出品案内が理事さんに手渡されました。美術連盟の節目と

なる記念展ですので、例年より早めに会員の皆様にご案内することで、最高の自信作を準備頂き、全員参加されることを期待しております。

本年度も盛り沢山の行事が計画されておりますので、ぜひ皆様の積極的なご参加をお願いいたします。



新役員も決まり、記念展に向け決意も新た。

新緑の日光スケッチ旅行

東支部 阿部 勉

今回は5月10日、11日に実施し、24名と多数の参加があり、その上絶好のお天気に恵まれました。

初日は小杉放庵記念日光美術館見学と輪王寺境内スケッチを行いました。放庵は横山大観とともに明治時代に活躍した画家であると同館学芸委員から説明を受けました。

輪王寺では、当日が日曜日であったため参拝観光客が多く、スケッチ場所を捜すのにあちらこちらと苦勞している様でした。

翌日は奥日光湯ノ湖周辺をスケッチしました。白根山には残雪があり、麓の白樺林とともに高原の空気を十分味わいました。

帰路、戦場ヶ原に短時間ながら立ち寄りました。

2日間それぞれの場所の滞在が若干短かった感じがしましたが、それなりに収穫があったと思います。皆様ご協力ありがとうございました。



すばらしい天気に恵まれて



西支部

松尾 秀子さんに Tea タイム

● 絵を描くようになったのは、いつごろですか、何かきっかけがあったのでしょうか。

▲ 春から秋にかけて、夫が育てたバラがいっぱいで、庭も家も華やかなのですが、花のない時期はなんだか部屋が寂しくて。絵でも飾ろうかとのぞいた画廊で「西村計雄」の絵に出会いました。買ったかったけれど値段が高くて手が出ませんでした。自分でバラの絵が描けたらいいな、と思って習いはじめたのが1995年ごろです。

● 絵を描き続けて良かったと思うことがあったら教えてください。

▲ 今まで続けられた中で、自分の病気も含めて苦しくて悲しいことがありましたが、絵画教室プラネットの先生や仲間を支えられ元気になりました。ほんとうに感謝しています。

● 松尾さんといえば「薔薇」というイメージですが「薔薇」への想いを聞かせてください。

▲ 最初はフランス作出の淡い色のバラが好きでしたが、今は香りのほうに魅力を感じます。手がかかって大変な花ですが、満開の時期はよい香りにつつまれて幸せを感じます。

● 好きな作家を教えてください。またどういふところが好きですか？

▲ ベルナールとカトラン。単純化された構図と詩的な色遣いが気に入っています。

● 座右の銘などありましたら、お聞かせください。

▲ 「自分が言われて嫌なことは、ひとにも言わない」子供のころ、両親にいわれた言葉です。



自宅のお庭は様々な品種のバラでいっぱい。



東海美術連盟創立 40 周年記念事業について パート 4

東海美術連盟副理事長 柵井 哲雄

昨年10月23日に委員会を立ち上げまして以降、10回の打ち合わせの機会を設けました。その都度委員の方々にはお忙しいなか集まって頂き大変ご協力をいただきました。

4月21日以降は記念誌編集委員会が中心となり、これまで集めました資料を基に、編集の仕事に入りました。40年間の資料をまとめるのは大変な作業でした。せっかくの資料を何とか生かそうと、予算を考えながら当初B5としていたのをA4に、16ページを20ページに変更する等検討を重ね、5月19日をもってついに最終稿にこぎつけました。

委員会の方々、本当にご苦労さまでした。記念誌は、できましたら1日も早く、最悪でも作品搬入までには会員の皆様に渡せるかと思っておりますのでご期待ください。

記念誌ができますといよいよ作品の展示とその後の記念美術展のオープニングパーティーとなります。村長、教育長、文化協会長の皆様をはじめ、我々の文化活動にご理解を頂いております方々に参加していただきます。手作りのパーティーですので皆様の更なるご協力と参加をお願いいたしまして、節目の展示会を盛大なものにしたいと思っています。

※記念誌配布は6月6日の記念展搬入日です。各理事さんにまとめてお渡ししますので理事さんよりお受けとりください。



特別記事「創立40周年 よもやま噺」

東海美術連盟創立40周年に当たり、創立と運営に尽力された高橋さんと門前さんにご苦労などをお尋ねしました。

Q1 お住まいがお隣り同志ですね。

高橋 自分の家(アトリエ)が欲しくて、会社と労働金庫から借金し、アトリエを建て、東海に芸術村を作ろうかと考えていました。土地が5区画あったので、絵を描く仲間や音楽をたしなむ方に話しかけました。しかし、27才では信用もなく、小生より年下の方が「先輩に任せるよ」ということで、結局3名が家を建てました。その一人が門前さんです。

門前 1967年だったと思います。アトリエの準備のつもりで、気楽に高橋さんの紹介話に乗ったのですが、話しが拡大してゆき、家まで造ることになりました。今思うと向こう見ずだったと感じています。家庭を持つ話ですから。

Q2 美術を研究する団体をつくったきっかけは？

門前 東海村に住むことになった以上は、仲間を集めようと思い、有志で村の教育長さんへ美術団体結成の相談を持ちかけました。村の方でも、似た話が持ち上がっていて、タイミングよく、お互いに協調し合っ、美術協会を結成しました。

高橋 日立製作所関係勤務者と原研関係の絵を描く仲間が会議を持ち、同好会を設立し、美術協会を経て連盟組織となりました。第1回は真崎公民館でタルキを組んで作品を展示した記憶があります。その2年後、東海村文化協会を設立する立案など行いました。村に展示用パネルがなく日立製作所より借用し展示しました。

Q3 行政の支援や協力を得ながら活動を発展させてきたことが、ユニークな運営方法だと思います。この発想はどこからきていますか。

高橋 どこの市町村でも文化やスポーツの主体は行政が中心ですが、東海美術連盟にあっては民間の我々が主体となり、門前さんや山崎猛(故)氏とアートロードを提案しました。原研通りに看板を自前で造って設置しようとしたが、県の許可が(県道のため)必要でした。現文化協会長萩野谷博様(当時都市計画課長)に県との交渉でお世話になりました。

何でも自分達で実績を造ることが、行政や文化協会への説得力になると思います。

門前 地域に根ざした文化活動となると、同好の仲間と行政のサポート、次に地域の皆様から理解を得ることが必要です。一体となった活動を進めるに有効な手段として、何が不可欠なのかの問いは常に頭の中にありました。要するに、村へは資金援助をお願いし、具体的な活動計画は、自分達で具現化して、周囲に迷惑をかけないことです。

Q4 年間5つの行事計画が設置されていますね。これは、はじめから固定されていたものですか？

門前 年間計画を作成し、計画的に実行していくのは、当初から、会社の仕事の進め方から習慣付けられていました。一般的に当然のことと思っていました。

高橋 1年間で無理なく行える計画の回数と思っています。当初より固定されたものでなく前年度を反省し変更した年もあります。行事内容は各支部が責任を持って担当し回数などバランスが取れていると思います。





Q5 現在の会員の活動状況をご覧になって感じることはありませんでしたらどうぞ。

高橋 美術連盟行事のほか、アートフラッグ、あさぎ色の会、同好会、絵画教室など絵を描く機会に恵まれていると思います。

門前 団体としての年間行事回数は多いのでは？と感じております。しかし、内容的に自発性が強く皆が必要と感じているのなら、回数の多さは気にしなくてもよいと思います。

Q6 今後の活動の方向性などについてお考えがありましたらどうぞ。

門前 自発的な活動で、お互いの向上心を助長させてゆく活動なら積極的に取り入れたらと考えます。日常生活を楽しく過ごすことが主で、毎日を活性化していくような行事計画が大切なのではないでしょうか。

高橋 年齢的にも良いところに来ていると思いますし、美術連盟創立40年となります。円熟の時期と考えます。自分の絵の制作のほかに文化活動（夏休み子ども絵画教室、子供芸術祭、彫刻洗い隊）にも参加し文化のまち、東海村を造っていきたいと思います。

Q7 常日頃、感じたり考えたりしていることがありましたら、自由にどうぞ。

高橋 ①初心者もベテランもおり意志疎通を常に図っていきたいと思います。

②まずは絵を描くことが楽しくありたいと思います。

③絵を通じて自分を主張することも非常に重要です。苦勞の場面も多いですが、発表の時に、満足感を味わえます。公募展等に積極的に出品したいものです。

門前 ①自発的な探求心をベースに、明るく楽しく過ごせる様な絵画活動に徹したいと思います。

②絵がすべてではなく、創造的な生活を実感するために、その手段としての絵があると考えています。

③常に前を見て、目標を掲げ続ける努力の中から、向上心が生まれて来ると思います。

できるだけ多くの場面に接するようにして、モチーフ探しに気働きさせてきたものです。



左から後に信田さん、前 坪さん、門前さん、佐久間さん、後 高橋さん、佐藤(康雄)さん、後 植田さん、佐藤(政一)さん、後 植田さん、後 栗原さん前 大内(成光)さん



懐かしい顔ぶれです。

Infomation

東海村芸術祭	5月17日～6月13日	東海ステーションギャラリー A/B
美術連盟記念パーティー	6月7日	東海文化センター
東海美術連盟 40周年記念展	6月7日～6月13日	東海ステーションギャラリー 1F/2F
アートフラッグ展	7月5日～7月11日	東海ステーションギャラリー 2F
裸婦デッサン会	7月18・19日	真崎コミセン
夏休み子ども作品教室(文化協会主催)	8月1日	東海文化センター 2F 会議室(会員の中から協力)
合評会	8月8日	場所未定